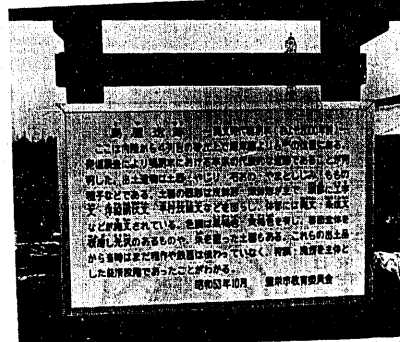


装飾品や墓の形跡など発見 鳥屋遺跡発掘調査

鳥屋遺跡の発掘調査が七月二十三日から八月十二日まで行われました。これは、地主の基盤整備事業に伴って実施されたもので、和洋女子大学寺村光晴教授を団長とし、不順な天候の中、精力的に行われました。この遺跡は、木崎地区の鳥屋地内にあり、内陸から第四列目の砂丘上に立地し、海岸から約六、七の位置で、地目は水田、果樹園、畑地からなっています。調査団によりますと、この遺跡は、縄文時代晩期後葉（約二千二百五十年前）の

時期に生活が営まれたもので、古くから寺村教授らによって調査報告がなされた著名な遺跡とのこと。今回、検出された遺構は、土壇約百三十基で、土壇内より、骨片、骨粉、朱塗りの朱塗土製土器（フリ、クルミ等）、石鏡、石斧など多数です。骨片は、人骨と思われるものが、なかには焼骨と思われるものもありました。また土壇上面には、ほぼ完形の土器や礫等が埋蔵されたような状態で見つかり、墓としての全体的にも貴重な遺跡とされる鳥屋遺跡。入口付近に立てられた案内板にもその旨、記されています。



△ 遺構が発見され、はれものにもさわるようにカメラやノートにおさめられています。

性格を具備した点がみられます。このため、これらの土壇群は、当時の埋葬施設として利用された可能性が強いと考えられます。遺物は、土壇内以外には砂丘傾斜地に見られた遺物包含層から、多数出土しています。朱塗りの土製土器、石鏡、土偶（足）、耳栓、石鏡、石斧、磨石、石鏡のほか、復元可能な一括土器（約五十点）など十数点が、も及ぶ遺物が認められました。以上の遺構、遺物から、調査区周辺には、かなりの規模の当時の集落が、存在していると予測されます。このように入土壇があげられます。な遺跡は、限下のみならず、全国的にみても、類例がなくたいへん貴重な遺跡と言えます。教育委員会では、今後の調査報告書に、その成果をまとめ、遺物の復元可能なものについては、市の文化財指定を検討しています。土壇（ごころ）集落遺跡では、多くの土壇が発見されます。円形、長方形、長方形のほか、不整形のものも多くあります。機能によつてわけると、主なものとして、貯蔵穴、ごみため穴、土壇墓があげられます。

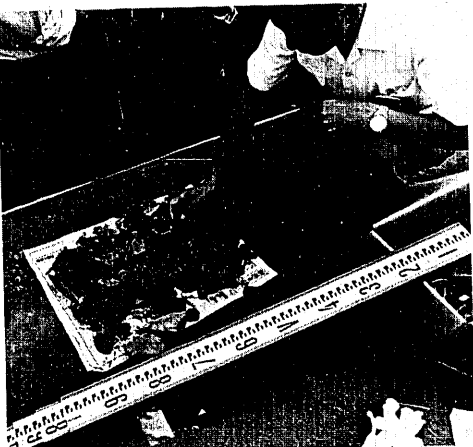
▽ 復元の可能性を秘めた遺物は慎重に発掘されます。



△ 出土品の中から深鉢形土器（右）と装飾品の胸飾り二個（左）が発見されました。



△ 整然と縄が張られ、地元の人たち約15人が、連日汗を流してくれました。



△ 多くの遺物が出土しました。



△ 小さいものでも、出土品は一つずつチェックされます。



△ 発掘作業もほぼ終り、最後のまとめが行われました。